



みどりの風

平成26年7月1日発行
校報 第510号
〔みどりの風 第53号〕
練馬区立関町北小学校

世界の果ての通学路

校長 大野 泰弘

今年5月の大型連休に、「世界の果ての通学路」という映画を見る機会がありました。私は、映画を進んで観ることはあまりないのですが、このフランス映画については、新聞のコラム欄の中でも取り上げられていて、そのときから関心をもっていました。この映画が、昨年、フランスで20週を越えるロングラン上映となり、公開されたドキュメンタリー作品で第1位となったこと、いくつものドキュメンタリー賞を受賞したことなどが関心と呼んだのではなく、学校と家庭とを結ぶ「通学路」を生きる、この映画に登場する4人の子どもたちの日常からあらためてわが国を含む先進国と言われている国々の今や将来について考えるテーマがそこにあると思ったからです。

この映画に登場してくる4人の子どもたち(とその家族や友達)の教育環境には、とても厳しいものがあります。

ケニアのジャクソン君〔11歳〕は象やシマウマ、キリンなどの野生動物が生息するサバンナを毎日妹のサロムさんを連れて、片道15kmの道のりを2時間走って通学しています。ケニアでは子どもたちが野生の象に襲われる出来事が毎年数件起こっているとのこと。そんな危険な草原を往来しながら、彼の夢は「まだ見たことのない飛行機のパイロットになり、世界を知る」ことなのだそうです。

アルゼンチンのカルロス君〔11歳〕は、アンデス山脈の人里離れた村に羊飼いの子として生まれました。毎朝、仕事を終えてから、妹のミカイラさんと一緒に自分の愛馬キペルトの背中に乗って、パタゴニア山中の道なき道を片道18km、1時間30分かけて学校へ通っています。愛馬キペルトとの心の通い合いもあるからなのか、夢は「獣医になる」ことで、地元に貢献したいのだそうです。

モロッコのザヒラさん〔12歳〕は、アトラス山脈中心部にある辺境の村に生まれました。真冬には気温がマイナス20度にまで冷え込み、雪も数か月間降り続けるのだそうです。ザヒラさんは、毎週月曜日の朝、夜明けに起床して、友達2人と一緒に、4時間かけて22kmも先にある全寮制の学校に行き、金曜日に同じ道を帰ってくる生活をしています。家族の中で初めて学校に通うことになった彼女の夢は「医師になる」ことなのだそうです。

インドのサミュエル君〔13歳〕は、ベンガル湾に沿った漁村に生まれましたが、足が不自由で、歩行ができません。そこで、サミュエル君は2人の弟に車いすを押したり引いたりしてもらいながら、片道4km、1時間15分かけて登校しています。車いすと言っても故障しがちで、毎朝トラブルの連続になりますが、3人の絆は強く、困難にも負けません。そんなサミュエル君の夢は「同じような障害をもつ子どもを救う医師になる」ことだそうです。

あらためてこの4人の子どもたちの通学路に思いをよせると、いずれも死に直結しかねない危険に満ち溢れています。通学路の途中で出会った困難に対して、自ら解決策を見出していかなければならない現実、学校に通い、学ぶことができることへの喜びを胸に、危険を受け入れ、学校に通い続けるひたむきさ。彼らの瞳にあるその輝きは、自宅と学校とを結ぶ通学路に自らの人生と夢をかけ、真剣に生きている姿を伝えてくれているように感じられました。まさに、通学路とは、わが国の子どもたちも含めて、彼らの夢につながる道であって、それだからこそ、子どもたちを迎える学校には、その思いを受け止める温かさがなければなりません。この4人の子どもたちが通う学校の教育環境は、わが国に比べれば恵まれていないかもしれませんが、この子たちが生命の危険をも乗り越えて学びたいという意欲を続けさせるほどの教師の愛情、教師と子どもたちとの信頼に溢れており、学ぶことの楽しさや生きがいなどを味わえる場なのでしょう。

この4人の子どもたちは映画のラストシーンで、上記のような自らの夢を語っていました。「夢をかなえたい」から「学校に通い続ける」。彼らの視線の中には、将来の自国にとどまらず、世界や地球全体を支えていこうとする大きな希望が感じられました。住む大陸も、使う言語も、生活習慣もすべて異なっているにもかかわらず、彼らの姿には共通する何かが見えてきます。それは、通学路の距離や環境が違っていても、わが国の子どもたちも同様でしょう。子どもたちは、自然の脅威は少ないものの、ほかの危険にさらされながら、ランドセルを背負い、自らの夢に近づくために、その人生をかけて通学路を通して来ます。「安全」であることはもちろんですが、その思いを受け止めることも大切です。この「世界の果ての通学路」という映画は、私たち大人に何ができるのか、何をすべきなのか、今日のわが国の状況で見失いがちなことをあらためて示唆してくれているように感じました。この4人の子どもたちの姿から、学ぶとは何か、何のために学ぶのか、そんなことも教わったように思えました。

もし、夏休み中にご家族で映画をご覧になるご予定があるようでしたら、この映画は、その選択肢の一つになるのではないかと思います。今月は個人面談等も予定されておりますが、引き続き、学校教育へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。